

山行報告



■黒尾山

- 日 程：3月11日(水)
- 参 加 者：La 和田 SLa 村上 有本 田中(重) 山下(純)
Lb 上田 SLb 狩集 赤木 宮崎
- 行 動 記 録：登山口(11:05 着)11:30 発～中央尾根途中(11:45 着)11:55 発～
登山口(12:05 着)～不動滝(12:20 着)12:30 発～登山口(12:55 着)
～駐車場(13:20 着)13:25 発～八幡神社(13:40 着)14:10 発

◆◆雪山・山行で学んだこと、学ぶこと

宮崎

「西高東低、冬型の気圧配置が続き、上空には真冬並みの寒気が流れ込む見込み、北部では断続的に雪が降る」－3月11日神戸新聞朝刊きょうの天気より－

前日、ここ高砂でも雪がちらついていた。和田Lから参加者にはP Cメールで黒尾山の積雪は20～30cm・アイゼン持参。前夜には明日の宍粟市の天気予報や気象情報(雨具・防寒着持参)が送信されていた。



黒尾山(1000m越え)山行の朝、空気は冷たいが青空だった。国道29号線を走行中、標識を見ると気温は1℃。宍粟市に入る頃には-1℃になり、高い山には雪雲が掛かっていた。マイカー4台は道の駅「播磨いちのみや」で合流した。

鹿除けのゲートを開け、林道の入り口へ。杉木立の間から太陽が姿を現し、その光線でキラキラ輝いている。スノーダストかな？どうにかこうにか4台の車をぬかるんだ駐車場に置き、

準備に取り掛かる。ザックカバーを付け、スパッツを履き、しっかりストレッチをして出発！

小石がゴロゴロの荒れた未舗装の道を歩き続ける・・・両脇には数センチの雪がある。途中で和田Lが地図とコンパスで位置を確認する。上田SLが「誰か、高度計持っているか？」と尋ねる。ここは標高が490mと誰かが言った。コンパスと併用する事によって現在地をより正確に地図上で特定出来ると教えてもらった。

林道の終点には黒尾山登山口の看板があった。山頂までは右・左コースもあるが今日のコースは距離が短いけれど急勾配の中央コースを登るのだ。小雪が舞っているが風はなかった。

動いているぶんには寒さを感じない。汗も出る。振り返ると高い山々はもう雪化粧している。

中央コース入り口の道標を見つけると、ここから本格的な登山道に入る・・・小石の上に落

ち葉や小枝そして5cm以上の新雪、幅30cmあるかないかの登り道、慎重に足を運ぶ。

コースを示すピンクのリボンを確認しながら前の足跡を追う。歩くこと数十分、標高が上がるにつれて積雪も多くなってきた。少し平たいところに着くと和田Lと上田SLがこの状況（この時点で時計は11時30分・地形のことや天気の変化など）を的確に判断して“この時点で引き返す”ことを皆に告げた。

下山するのでアイゼン装着の指示が出る。私は自分のアイゼン使用は2回目（金剛山で凍りのように固く締まった雪道しか歩いた事がない）まだまだ手間取って焦ってしまう。紐は買った時のままで長く、固定しても遊びの紐を適当に掛けていた。それが後で悲惨な目に合うことになるとは・・・紐の先端部分は踏まないように外側に向けることと教えてもらう。途中で、「もし滑って転げ落ちたらどうしたらいいのか？絶対パニックになる！」そんな事も頭を過り又、不安を抱えながらしっかり足場を踏みしめて下りた。

中央コースの入り口まで戻った時は胸を撫で下ろした。看板のあるところまで戻ると右コースで二つの滝を見に行く事になった。この時点で自分の意思でアイゼンを外す人もいたが私はまた登るし、滑るのは怖いのでそのまま付けて歩く事にした。このジグザク登山道は大小の石ころ道、その石の上に雪が積もっているので歩き難い。雪もぼたん雪に変わる。口滝・不動滝は水量が多くて凍ることはなかったが水しぶきが凍っていて面白い形をしていた。冬ならではの景色だ。滝を見て下山途中に石の上に乗って足を捻ってしまった。その時点でアイゼンを外すことも出来たが、そのまま歩くことにした。足取りも重い。林道の途中で取ることにした。右のアイゼンはスムーズに取れたが、左は、固定フックに絡まり外れなかった。片側だけ付けて歩いたが「どうしょう？」と、困り果てていた。先頭とずいぶん間が開いた。前を歩くAさんに様子を話すと自動車の鍵を出し、先の細い部分で振れを戻してくれて事なきを得た。それからは足取りも軽く無事に駐車場にたどり着いた。雪も無く、青空になっていた。ああ～お腹も空いた！

八幡神社で遅い昼食をとり、よい温泉で汗を流した。ここでやっと緊張感も筋肉もほぐれたような気がした。帰って一番にしたのはアイゼンを洗い、紐を少し短く調整した。

前日の夜、ザックに必要なものをパッキングする時、替えの靴下や手袋・カイロ・ラジオはもちろんの事、初めて補助ロープやカラビナ2つ・笛を入れた。使う事もなく安心したもの、ロープの使い方が分からないし、自己確保するにはどうしたらいいのか？万が一の時にも対処出来るだけの体力と技量を身につけなくては・・・。まだまだ勉強不足だ！

和田L・上田SL、そして参加の皆さん、いろんな場面で声を掛けて頂いたり助けてもらい感謝です。またいつか山頂まで登りましょう～私には記憶に残る山行になりました。



■京都の奥座敷 鞍馬山・貴船山(女性委員会)

- 山 行 日：3月15日(日)
- 参 加 者：L尾内 SL瀬尾 金島 狩集 垣内 澤田(律) 瀧原 田中(美) 田羅間(易) 村上
- 行 動 記 録：鞍馬駅 10:00 発～由岐神社(10:15 着) 10:20 発～鞍馬寺(10:30 着) 10:40 発～奥の院(11:10 着)～貴船神社(11:35 着) 12:05 発～滝谷峠(13:30 着) 13:35 発～貴船山(14:05 着)～野外活動センター(15:20 着)

◆◆鞍馬寺から滝谷峠

朝10時、鞍馬駅に着いてまず驚くのがとてつもなくでかい天狗のオブジェの迎えです。

そう、豊30豊は優にあるか、真っ赤な顔に長い長い鼻、あまりのすごさにちょっと息を呑む感じです。奥京都はお彼岸とはいえまだ寒くあたりの木々は冬のそのままです。

私たち今日の一行は総勢10名の女子会、日ごろの生活粋からはみ出し気分でウキウキのハイキングです。

早々と目敏い誰かが“ふきのとう！”と一声。川のほとりを覗くとなんと可愛らしい、1つ2つと頭を見せています。幸先の良い山行になる予感です。シーズンオフにもかかわらず善男善女の鞍馬寺詣に出会います。狛犬さんならずこの鞍馬はトラの阿吽です。境内の清掃に余念のない職員さんに“ようおまいりです”声掛けをいただいて、私たちは気を良くしながら長い階段を上っていきました。昔、まだ新婚のころ夫とこの山に来た覚えはありますがすっかり忘れていて、今日生まれて初めて牛若丸に会いに来たような気分で山の中に入っていきました。木の根っこは地面に浮きだし生命力を見せてくれます。神聖な水も湧き出していて夏になればきっとハイカーたちの喉を潤わせてくれるのでしょう。樹齢何年かわからないほどの大木が何本もあってこの山のすごさを物語ってくれます。登るごとにお堂をお参りし貴船神社に着いたのが11時30分、境内に備えられた椅子に10人が車座になり昼食です。私の感覚では今日の山行はこの状態が貴船口まで続くと思っていました。

大変だったのは午後の行程でした。食事を終えて滝谷峠に入ります。しばらくは広い道路を登っていきます。やがて北山杉の伐採現場らしきあたりから山の中に入りました。谷川のほとりを登っていく道で私たち以外ハイカーはいません。道らしきものはあっても崩れていて、うまく足を乗せないとそのまま谷にずり落ちてしまいそう。こんなはずじゃなかった・・・心の中ではつぶやきながらそれでもリーダーの後に続きます。20分ほど登った頃、上から下りてくる夫婦連れにちょっと様子を聞きます。“道が相当荒れていますよ。気を付けて登ってください”ますます心が折れそう。ストックを持ってもらったり、励ましてもらったり滝谷峠目指します。一足一足考えながらの登りです。

1時間くらい登ったかと思った頃、今度は若い男性に会いました。“滝谷峠までどのくらい？”

“あと40分くらいです。”

峠は雪がありますよ”え！あと40分？もう私は泣きそうです。最近登った山では一番難儀・・・胸の内でもつぶやきながら登っている自分が情けなくて・・・。ところがそんなに時間をかけずに天井が開けました。木立は途切れ明るくなってきました。滝谷峠です。やっと、たどり着きました。調子の悪いはずの足の痛みはどこかへ飛んでしまい嬉しくてザックをおろし水分補給と心の入れ替えです。噂通り峠は残雪で真っ白、意気揚々と記念写真です。ここからの道は先ほどの登り道とは文字通り雲泥の差、柔らかい落ち葉道を踏み貴船山に向います。遠くに見える里を見下ろしながらの楽しい道

です。さっきまで泣きそうだった私もなんでもなかったように仲間と歩きます。貴船山山頂にはハイカー達が置いて行ったのでしょうか小さなケルンがありました。木々たちはほんのり赤く春の芽吹きに備えています。

金島



15時15分予定通り貴船口に到着。泥まみれの登山靴を川のほとりで洗い落とし私たち女子会は帰りの電車を待ちました。



■八ヶ岳(北横岳、縞枯山)

- 山 行 日：3月14日(土)～16日(月)
- 参 加 者：L砂川(延) 赤木 有本 石田 上川 香川 北口 荘所 田中(重) 田中(由) 平井(正) 峯山 山本(清)
- (アルプ・蓼科組)：L竹内 尾越 和田

行動記録(14日・土)

場 所	着	出
J R宝殿駅北ロータリー	8:20	
J R姫路駅南地場産ビル前	8:45	
社パーキング	9:30	9:35
湖東三山PA	11:20	11:25
多賀SA	11:30	12:05
駒ヶ岳SA	14:10	14:30
伊那IC	14:40	
高遠城前	15:00	15:30
杖突峠展望台	16:00	16:10
茅野市内	16:25	
ペンション山ぼうし	17:15	

行動記録(15日・日)

場 所	着	出
ペンション山ぼうし		8:45
山麓駅(ロウブウェイ)	9:10	9:20
山頂駅	9:30	9:50
縞枯山荘		10:10
縞枯山	11:00	11:10
縞枯山展望台		11:30
縞枯山 茶臼山のコル	11:55	12:10
茶臼山		12:35
茶臼山展望台	12:40	12:45
縞枯山茶臼山分岐		13:05
五辻	13:35	13:40
森林浴展望台		14:00
山頂駅	14:25	14:40
山麓駅		15:00
ペンション山ぼうし		15:30

アルプ行動記録(15日・日)

場 所	着	出
ペンション山ぼうし		8:00
ゴンドラリフト下駅	9:00	9:15
ゴンドラリフト上駅	9:20	9:25
7合目	9:40	
ワカン装着	10:10	10:15
蓼科山荘	11:50	11:55
蓼科山頂上(竹内、尾越)	12:35	12:50
蓼科山荘	13:20	13:45
ゴンドラリフト上駅	14:50	15:20
ゴンドラリフト下駅	15:25	
ペンション山ぼうし	16:10	

◆◆八ヶ岳(茶臼山 縞枯れ山)

石田

八ヶ岳とは、赤岳、横岳等を主峰とする南八ヶ岳と茶臼岳、縞枯山、北横岳、蓼科山等の北八ヶ岳からなる長野県と山梨県にまたがる山々の総称である。

去年は、「天候景色がこれ以上のものがない。」というほど恵まれ、今年も是非同じような景色を見たく参加することとした。

歌詞にもあるように「女心(娘心)は、山の天気」とは、よく言ったもので、天気予報は、1日目2日目と雨であり、当日も家を出るときは雨で、気持ちも沈みがちであったが「さくら」で有名な高遠城址に立ち寄った頃には雨もあがり、宿に行く途中の杖突峠の展望台では、八ヶ岳の中央はガスっているものの両サイドの蓼科山と西岳がはっきり見え、また諏訪市内が一望できるぐらいに天気は回復していた。

あきらめていた天気であったが、明日は期待できると思うと日頃の行いのよさを自分なりにほめてやりたいと思った。・・・・？？？？

ペンション「やまぼうし」には、午後5時ごろに着き、ネットで見たとおりやさしそうな老夫婦が出迎えてくれて、早々に風呂に入った。そして小宴会後、夜空を見ると、大普賢岳で見た

満天の星ほどではないが、チラホラしていたので、きっと明日は快晴であると確信して早々に就寝した。

2 日 目

起床後、テレビの天気予報では、「快晴」とのことで、雨マークはなし。会員の中にきっと「晴れ女か晴れ男」がいるのではと思った。



よく考えてみると、私は、山登りをして10年以上になるが、本格的な雨に遭遇した山行は法沢山ぐらいの記憶しかないのである。晴れ男は、私かな・・・？

2日目は、蓼科山登山のアルプ組3名スノーシュー組11名、スキー組2名に分かれた。

私は、スノーシュー組で午前9

時発のロープウェイに乗り約7分で標高2237mの北八ヶ岳「坪庭」に着いた。

出発前に、会長の友人である和気さんが、今年は、例年になく大雪で、いつもの1.5倍の積雪があるとのことで、スノーシューのコースも坪庭～雨池峠～縞枯れ山～展望台～茶臼山～五辻～坪庭がお勧めであった。このコースは、昨年と全く逆のコースだった。

2403mの縞枯山、2384mの茶臼山での各展望は最高で、北アルプス、乗鞍岳、噴煙があがっている御嶽山、中央アルプス、南アルプスの山々が一望できたが、とにかく天気はいいのであるが風が冷たすぎて、長居が出来ずに早々に下山することにした。

午後4時頃には、全員無事宿に戻り、いずれの組も「景色は最高」とのことであり、今夜の祝宴に備え、近くの温泉に行き、汗を流した。

夕食には、鹿肉の味噌漬、イワナの天ぷら等が出て、中々の山の珍味であった。また生ビール、持ち込みの焼酎、ラム酒も十分にいただきました。

今夜は、和気さんも泊まることから、宴会は盛り上がったものの、朝になると前夜の記憶が全くなく、歳を感じるようになった。

3 日 目

和気さんから、事前に雪崩で道路が閉鎖になっており、車山高原に行くには迂回になるため、時間がかかるということでした。そこで近場の標高1860mの八子ヶ峰に計画を変更した。

八子ヶ峰は、宿から約10分のところにあり、駐車場から約100mの高さで、歩いても3～40分の歩行距離である。

ここでの展望も最高で、八ヶ岳・南アルプス・中央アルプス・北アルプス等が一望でき、しばしその眺めに感動していました。

贅沢な時間を過ごしていると、生きていることに感謝していた。そして諏訪市内で「信州そば」の昼食をとり、帰路に着きました。

全員事故無く、無事に帰れたことが一番の土産だと思う。

最後に一人で運転の会長ありがとうございました。

◆◆三度目 雪の蓼科山

尾越

正に三度目の正直！

一度目、雪山教室として初めて輪かんを付けズボズボと雪に埋まる重い足を上げながら蓼科山荘のある將軍平に着いた時はホッと、帰りのゴンドラリフトの時間もあり頂上は断念して引き返す。2度目、今年こそはとの思いで上がった頂上は風で飛ばされないよう踏ん張るのが精いっぱい、景色どころかメンバーの姿さえ見えにくい天気でした。

今回3度目、ペンションやまぼうしを砂川会長の友人でスキーの講師、山のガイドをされている和気さんの車で出発、山道のカーブを運転しながら北、中央、南アルプスの山々を、「右から白馬三山、雨飾山、鋸山、穂高、尖がった先が黒いのが槍ヶ岳、煙が出ているのが御嶽山、木曾駒ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、阿弥陀岳、赤岳」と、まるで頭の中にアルプスの山々が並んでいるようです。

白樺高原国際スキー場ゴンドラリフトで御泉水自然園5合目からカラマツ林の中を歩き、鳥居のある7合目登山口を過ぎ、雪が深くなったのでワカンを着、高度差約700mをひたすら直登する。蓼科山荘のある將軍平に着き後ろを振り向けば木々の間からポスターのような北アルプスの雪景色がありました。山荘はほとんど雪に埋まり屋根が見えているだけで、真っ白に丸みを帯びた山頂を目指し歩き出す。途中までは確かに深いトレースをたどっていたが、森林限界を過ぎた頃、いつの間にか風でトレースが消えラッセルすることに急斜面を踏ん張り先頭を交代しながら行く。足を前に出すが雪の中でもがいているしかない、5歩ほど進み、楽な2番手に(ほとんど2番手)、向うの方で人の頭を見つけた時はホッと、先行パーティーのトレースを見落として新雪を歩いていました。



蓼科山は山容が美しく「諏訪富士」とも呼ばれ、周りに山や峰のない「独立峰」ということもあり360度のパノラマで、広い頂上には蓼科神社奥宮、一等三角点があり、方位版そのままの中央アルプス、北アルプスの稜線が雲の上に浮かんでいる景色を見渡すことができました。今回3度目の感想としては自分の足で歩いたとの実感、達成感、2m以上の積雪の中のラッセルの体験は良い経験になりました。

登山ルートは3カ所あるようで、次回は女の神茶屋からと心に決め4度目の雪の蓼科山を今から楽しみにしています。

3日目の毎年恒例の車山高原は雪崩により八子ヶ峰に変更、登る途中に平たく広がったきれいな雲が見え和田さんに声をかけると「レンズ雲やね」さすがです、学習会A班担当！頼りになります。頂上から見る景色は素晴らしく、雪の中春の暖かさを感じられた頂上はいつまでもゆったりしていたい時間でした。

心配した天気も好転し素晴らしい景色に恵まれ、ペンションでの夕食も美味しく、日帰り山行ではできない参加者の方達との楽しいおしゃべりで親交を温めた山行でした。

砂川会長、リーダーの任務と長距離の運転お疲れ様でした。

参加者の皆様ありがとうございました。



■七種山

- 山 行 日：3月22日(日)
- 参 加 者：La 垣内 SLa 山本(正) 兼本 田中(武) 村上
Lb 竹内 SLb 藤田 赤木 北村 中村 山下(雅)
Lc 尾内 SLc 待場 中嶋 藤本 前川(克) 宮崎 渡辺(和)
- 行 動 記 録：野外活動S(8:45着)8:55発～七種滝・七種神社(9:50着)10:00発
～七種山(10:40着)10:50発～七種槍(552mピーク12:25着)
12:55発～440m(13:45着)13:50発～393.4mピーク
(14:00着)～下山路分岐(14:35着)14:40発～野外活動S(15:15着)

◆◆初めての七種山山行

前川

初めて七種山に登った。初めての感想文担当でもあり、はりきって(?)予定より早めに出発し、宝殿から車を飛ばし一般道を1時間足らずで野外活動センターの駐車場へ。駐車場には車がなくて一番乗りかと思いきや、ここは野外センター用の駐車場。隣の登山者専用駐車場に車を回すと、既に皆さんほぼ全員集合。

天気は快晴で絶好の登山日和。駐車場で集合写真を撮り、18人、3グループに分かれていざ出発。ゆるい坂のアスファルトを歩き20分で作門寺山門到着。山門はあるが寺が無い。

気になって調べると、寺は今は金剛城寺と言って火災で別のところに移したとのこと。山門横から更にアスファルトを進み、雌滝、夫婦岩、弁慶ののこぎり岩を見ながら20分で太鼓橋を渡り、名前通り綺麗な虹がかかった虹ヶ滝を過ぎるとここからは登山道に。10分程で七種神社に到着し、カメラに入らない程の落差(72m)を誇る県下八景の七種の滝を見ながら休憩。

先週の雨のせいか、滝の流れは勢いがあり大迫力。ここからは急峻な岩場が始まり10分登



ると滝の上に到着。更に30分岩場を登ると683mの七種山山頂へ。

勇気を出して、急な岩場をロープ頼りに下りてすぐ横のつなぎ岩へ。幅50cmほどの底が深い切れ目を跨ぐのは、本当に怖かった。

休憩後せっかく苦勞して登ったのに急な下り坂を45

分歩き、また上りを更に45分歩いて、577.3mの七種槍へ到着し、昼食。

ここから登山口までは大きな山はなく、もう下りばかりで楽勝と思いきや、足場の悪い岩場の上り下りの繰り返し。途中何度も登山口の田口池が近くに見えるのに思ったより遠く、結局七種槍から歩くこと2時間15分で登山口に到着。6時間の岩場の多い山歩きは、やはり私にとっては長くしんどいものであったが、前半はきれいな滝で癒され、後半はスリルな岩場で体力、気力を鍛えられ有意義な山行だった。計画されたリーダーの垣内さんやお世話になった皆さま、楽しい山行ありがとうございました。